

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13435

研究課題名(和文) 神智学運動の国際的ネットワークに関する比較文学的研究

研究課題名(英文) A Comparative Literature Study on the Theosophical Movement's International Network in the Modern Far East: The Reorganization and Propagation of Cultural Ideology

研究代表者

莊 千慧 (CHUANG, Chienhui)

九州大学・比較社会文化研究院・助教

研究者番号：50711123

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：神智学(Theosophy)運動は1875年にニューヨークで始まり、後に本部をインドに移した霊性思想運動である。戦前の日・印に活躍していた神智学徒は、大英帝国と日本のアジア主義団体と接点を持ちながら、独自のネットワークを持っていたことも解明されつつある。本研究はそのネットワークが中国にも及んだことに着目し、神智学運動に参加した日・中・印の知識人の翻訳・手記・旅行記を通して、彼らが発信した東洋概念を検討した。さらに、帝国主義とポストコロニアリズムの宣伝の攻防戦における神智学運動の位置づけ、及びその文化的波及効果を一次資料の収集を通して、その研究の基盤を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は従来の研究ではほとんど取り組まれてこなかった問題点、日中を訪れた西洋の神智学徒のアジア観や日中での人的ネットワークについて調査し、その人脈から神智学が土着化していく中で日中に与えた波及効果を確認した。東アジアの神智学運動のモノグラフ研究として出発し、近代東アジアで行われた東洋概念をめぐる思想活劇の虚実の一隅を検証した。東アジア神智学運動の多様性の解明は、近代東アジアで起きた帝国主義による衝突史の視点的補完に効果的だと言えよう。

研究成果の概要(英文)：The Theosophy movement was started as a spiritual movement in New York in 1875. The society moved its headquarters to India later. It is becoming clear that the theosophists who had been active in Japan and India before World War II had connections with the British Royal Navy and some Japanese Asian-ism groups. Meanwhile, they also had their own unique TS network. This study was focusing on how their TS network spread to modern China and their connections. This study examined how those Theosophists translated the "Asia" and the Asian unity to western countries via Theosophy as a filter. This research was concerned with Asian intellectuals who use the Theosophical network to achieve their post-colonial aims. As a result, we may suggest that though their thoughts about "Asia" were based on Theosophical internationalism aspects, their ideas were mistaken as Pan-Asianism movements.

研究分野：比較文化

キーワード：神智学運動 Theosophical Society Internationalism Post-colonialism

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者は科研(研究活動スタート支援(H27~H28)15H06352)において、神智学運動が近代日中における文化的影響を検証し、現段階の成果は主に以下の3点にまとめられる。(1)外交官であり神智学徒でもある伍廷芳は、神智学を用いて東洋の精神文明における東洋的近代化を提唱・啓蒙した。(2)スウェーデン人美術史家 Osvald Sirén の中国美術研究は、神智学を介して中国建築及び彫刻研究の嚆矢とされる梁思成の研究を刺激したというオリエンタリズムからナショナリズムの生成の影響の事例。(3)神智学運動は近代中国のポストコロニアリズムと女権運動に貢献。

一方、上記の研究を通して、(A)神智学に関する上記の研究状況が、文学、芸術、政治など、広義の近代史研究で共有されておらず、神智学運動の重要性と広がりが認識されていない。(B)研究の基礎となる一次資料の調査が欠けている。(C)東洋概念をめぐる、インターナショナリズム・ポストコロニアリズムの理念で日中を拠点にしていた東西洋の神智学徒の「東洋」観はアジア主義により看過されてきた、という従来の研究の問題点をあぶりだした。

## 2. 研究の目的

近代の「東洋」像は、コロニアリズムとポストコロニアリズムの力学により生まれた。神智学とバハイイが如何に援用・流用され、文化・文学面において複雑な「東洋」像が生成されたことを提示し、インターナショナリズムの性質を持つ神智学及び類似性を持つバハイイ教のネットワークが如何に文化的イデオロギーの再編に働き、またナショナリズムに流用されたことの解明を目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究のアプローチ一次資料の収集に重点を置きながら、以下三つの切り口から着手した。  
【1】神智学周辺の多層的ネットワークの解明【2】そのネットワークの解明を踏まえ、ポストコロニアリズムとの関連の確認【3】関連団体の発信による「東洋」像の生成、及びその文化的意義の解明。

## 4. 研究成果

研究期間中に伍廷芳とシャーストリー、カズンズらの翻訳・エッセイ・旅行記・講演録のほか、彼らの言動を記録した官庁記録を手掛かりとして、(1)神智学の友愛的精神に基づいた日中の「東洋」的連合の例を示し、神智学の多層的ネットワークが果たした役割と影響を調査した。(2)「研究の学術的又は社会的背景」で示したようなユダヤ=インド=中国のネットワークが、ポストコロニアリズムをどのように継承し、コロニアリズムとの対抗にどのように利用されたのか、その一次資料の収集に成功した。本研究期間中に収集した資料のデータベース化を今後の課題として進めている。

### 【Publications】

#### (Book)

• Chienhui Chuang, "Theosophical Movements in Modern China: The Education Provided by Theosophists

at the Shanghai International Settlement”, New York: SUNY Press, 2020. *Theosophy Across Boundaries: Transcultural and Interdisciplinary Perspectives on a Modern Esoteric Movement*. Eds. Hans Martin Krämer and Julian Strube. New York: SUNY Press, 2020.

### 【Conference papers】

- Chienhui Chuang. “Far Eastern Theosophical Human Network during 1910s-1920s : Internationalism or Pan-Asianism? ”, 2nd Diversity Symposium for Women Scientists in Kyushu University, Fukuoka: Kyushu University, 8 March 2019.
- 莊千慧「日本語雑誌『民俗台湾』にみる 日本人 の境界と日本語文学の臨界」, タイ国日本研究国際シンポジウム 2018 (バンコク: チュラーロンコーン大学にて) 2018年8月25日
- 莊千慧「神智学徒 H. P. シャストリー (1882-1956) のアジア滞在—靈性運動とコロニアリズムのあいだ」, 国際日本文化研究センター共同研究会「多文化交渉における あいだ の研究」(京都: 国際日本文化研究センターにて) 2017年9月25日
- Chienhui Chuang. *Theosophical network between modern China and Japan: focusing on Wu Tingfang and H. P. Shastri's Theosophical movement*, The Tenth International Convention of Asia Scholars, Chiangmai : Chiang Mai International Exhibition and Convention Center, 23 July 2017.
- Chienhui Chuang. *Propagation and Acceptance of Theosophy in Modern China*, 21st World Congress of the International Comparative Literature Association, Vienna : University of Vienna, 25 July 2016.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 莊千慧
2. 発表標題 日本語雑誌『民俗台湾』にみる 日本人 の境界と日本語文学の臨界
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム(JST)2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chienhui Chuang
2. 発表標題 Far Eastern Theosophical Human Network during 1910s-1920s : Internationalism or Pan-Asianism?
3. 学会等名 2nd Diversity Symposium for Women Scientists in Kyushu University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 莊千慧
2. 発表標題 上海神智学支部と初代会長H.P.シャストリー
3. 学会等名 ワークショップ「アジア・仏教・神智学」(龍谷大学大宮学舎にて)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chienhu CHUANG
2. 発表標題 Theosophical network between modern China and Japan: Variations of "Universal brotherhood"
3. 学会等名 2nd Conference of the European Association for Asian Art and Archaeology (Zurich: University of Zurich) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chienhu CHUANG
2. 発表標題 Theosophical network between modern China and Japan: focusing on Wu Ting fang and H. P. Shastri 's Theosophical movement
3. 学会等名 The 10th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 莊千慧
2. 発表標題 「神智学徒H. P. シャーストリー (1882-1956) のアジア滞在 靈性運動 とコロニアリズムのあいだ」
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「芸術と社会組織のあいだ インド、中国、日本」
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 莊千慧・岡本佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 500枚前後
3. 書名 神智学と帝国	

1. 著者名 Chienhui Chuang, Hans Martin Kramer and Julian Strube Ed.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 SUNY Press	5. 総ページ数 432
3. 書名 Theosophy across Boundaries Transcultural and Interdisciplinary Perspectives on a Modern Esoteric Movement	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----